

(1)評価基準に沿った評価	5人	1人	0人	0人	0人	4.8
(2)記述評価						
・PAAQが現在、外来で汎用されるACT,C-ACTと同じように使えるために、ガイドラインに載せることをアレルギー学会、小児アレルギー学会のレベルで検討してもらいたい。 ・FeNOとPAAQに加えてアドヒアランスの客観化の努力が求められる。項目5の評価は、今後結論が得られる項目だと考えられる。項目2は項目5に左右される部分であり、今後の結果にその評価は委ねられている。 ・WEBへのアクセス回数等がわかるようにする仕組みが必要ではないか。 ・アドヒアランス実践マニュアルをまとめた。また、学校生活管理指導票記載サポートプログラムなどをウェブページで完成した。これらは、アドヒアランス向上に有用である。 ・PAAQの応用、実践マニュアルの出版もなされた。貢献度は評価できる。 ・具体的な成果が得られており評価できる。個別化プログラム開発のベースとなっている各施設における検討の症例数は必ずしも多くはなく、さらに知見を収集して個別化プログラムにフィードバックしていくことが望まれる。						